

「祈り」

～信じる事は祈ること～

出エジプト記 17:8～16

ある臨月を迎えた女性が急に産気づきました。彼女の夫はすぐに助産師さんを自宅へ呼び、妻がいる部屋へ急いで入ってもらおうと外へ出て心配しながら出産を待っていました。すると間もなく部屋の中から助産師さんが慌てた様子で言いました。「ペンチを持ってきて下さい!」「トンカチはありませんか!」「なければノコギリ!」夫は恐ろしさと不安でいっぱいになり妻と助産師のいる部屋に駆け込みました。が、そこには持参した かばんがなかなか開かず必死になっている助産師の姿があったのです。このように私たちは、目の前の現状がはっきりわからないと、いつも不安になります。

海が真っ二つに分かれるというモーセの大いなる奇跡を目撃したイスラエル人は、苦しい労働を強いられていたエジプトから連れ出され奴隷状態から解放して下さった神様を絶対的に信頼していくのかと思いきや問題にぶつかると助けではなく文句を言いました。不信仰・不従順のゆえにイスラエル人は40年間荒野をさまよい、本来神様が彼らのために与えると言った約束の地カナンに入れたのは300万人の中の少数でした。ただ、そのような戦いの不安やつぶやきの中での祈りにも神様は答えてくれたのです。40年の中で彼らは何を学んだのでしょうか。

■ アマレク

聖書の中にアマレク人（エジプトではない敵）が出てきます。これはアブラハムの子孫である双子の兄弟の権利争いが始まりとなり子々孫々まで受け継がれてしまう失敗ゆえに生まれます。一時の出来事で感情的になり自らをコントロールできなかった兄エサウは本来大切にすべき兄の権利を簡単に弟ヤコブに渡してしまいました。別々に生きていく二人も後に和解をしましたが、自分の権利を奪われた恨みが代々継承されエサウの子孫はアマレクとなりました。たとえ許しても奪われたという価値観は変わりません。許してやったという概念は代々続くのです。私たちが先祖から継承するものは価値観であるという証明です。あなたの家系を考えてみて下さい。常識と思っている価値観がどれくらいありますか？その常識は周りの人々を巻き込んでいきます。それを変えなければ私たちの価値観は継承されてしまうのです。子育てで子どもに変わることを求めるのではなく親が変わった姿を見せるべきなのです。

■ 祈り

あなたは問題が起きた時、感情的になった時にどのように対処していますか？焦る、イライラする、逃げる、落ち込む、責任転嫁・・・神様がいつも恵みを与えてくださると知っていても、私たちはそれを忘れてしまいます。そしてそんな行動をしてしまった時にどうなりましたか？うまくいったのでしょうか？イスラエルの民も同じでした。神様を信じて祈ることの大切さを教えてくれる話があります。アマレクがイスラエル人に

戦いを挑んできた時、モーセは神様に祈りました。祈っている間、彼らは始め優勢でしたが疲れて祈りの手が下がるとたちまち劣勢になりました。モーセの手を両側から支え再び手を挙げて祈るとまたもや優勢になりました。

■ ①一にも二にも祈る

祈るとはどういう事なのでしょう。私たちはまず祈りからスタートします。目の前の出来事がなぜ起きたのか祈ると私たちは焦る心や怒る心が冷静になれるはず。では、どうやって祈るのでしょうか。

■ ②手を挙げる

祈るというのは手を挙げるということです。警察が犯人に「手をあげなさい!」と銃を向けると犯人が手を挙げる場面がありますが、意味は何でしょうか。私はもう抵抗しません、自分を守るための武器（手）を放棄しますという事であり抵抗する意志がないという事です。私たちは「人間」ではなく「人間的」に行動するので失敗します。祈るというのは自力で生きてきてそれが無理だとわかった私たちが、もう振り向かずに二度と自分の力（考え）で行動しませんという宣言です。手を挙げて祈る時に私たちの内側は神様に全てを委ねるスタンスに変わります。いつも神様に前に冷静に祈る人は問題の解決も早く、間違った行動を起こしません。間違った行動をしてしまう時には言葉の問題があります。判断できなくなると、あなたが発した言葉に命令されて体が動いたようになります。ですが脳は本来、あなたの言葉によって動いているわけではありません。冷静を失った行動は言葉よりも先なのです。ですから、そのような行動をやめる決断のために私たちは手を挙げそして価値観を断ち切るために祈るのです。もう同じ行動を見せてはいけません。

■ ③義人の祈り

イエス様の宣教は絶えず姿を見せるという方法でした。義人とは忍耐の人であり、問題のある時は祈り、喜んでいる時には神を賛美します。「義」とは主をいつも我の上に置く人であり愛に満ちた人です。私たちがもし感情的になるなら祈りの生活が失われているので義人ではないという事になります。相手の行動を見て裁判官のように判決を下し判断するのは祈っていないということなのです。判断は神様にゆだねるのです。それが祈りです。神様の前に降参をしてゆだねて祈りましょう。そうすれば私たちは義人に変えられていきます。

「何も思い患わないで あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。」（ピリピ4:6～7）

（要約者：西崎 真由美）

（6月19日）